

2023年度 学校関係者評価 報告書

学校関係者評価委員会

日時：2023年11月27日（月）15時00分～16時05分

場所：日本体育大学医療専門学校 会議室

学校関係者

- 蓮沼 鉄也 委員 はすぬま整骨院院長
甘利 雅雄 委員 非常勤講師
湯山 徳行 委員 歯学博士
難波 英樹 委員 難波接骨院院長 同窓会長 ※欠席
廣川 晃司 委員 神奈川歯科大学附属横浜クリニック 特任教授 ※欠席

学校

- 富田 美穂子 校長
吉田 裕輝 整復健康学科長
廣川 香 口腔健康学科長
門田 誠 事務長

学校側から現状や取り組み等について報告があり、学校関係者より意見や要望があった。

1. 報告

全体	教職員数、在学生数推移、学生募集状況、広報活動状況
整復健康学科	<ul style="list-style-type: none">・ 前回の国家試験の結果は、全国の合格率が49.6%と50%を下回る中、本校（現役生）は82.4%と前の年よりも合格率を伸ばした。国家試験問題の流出が話題になったが、学内にて調査を行い、該当しないことがわかった。国家試験対策として、過去3年間の学生の傾向を調べたところ、昨年度が一番良い成績（伸び率）であることが分かった。このことから、昨年度の国試対策をベースに今年度も行っていく。その内容は、4～8月上旬の間に解剖・生理学の問題を配布し自習し、8月下旬に講義形式で理解を深めた。コロナの影響でできなかった勉強合宿（3泊4日）も今年は9月下旬に実施し、柔道整復理論を重点的に叩き込んだ。後期からは、総合試験や模擬試験の結果から学生の弱点を洗い出し、問題等を作成して対策している。・ 1年生35名が入学し、現在まで退学者4名。2・3年生は退学者0名と、例年よりも抑えられている。退学者抑制の対策として、担任が学生と連絡を密にし、必要に応じて保護者とも情報を共有

	<p>し、意思疎通の違いなどで退学を未然に防ぐよう取り組んでいる。休学者が2・3年生でそれぞれ3名、合計5名いる。復学が見込める学生がいる一方、退学を延期する退学予備軍もいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本体育大学へ編入した卒業生はこれまで14名(毎年1～2名)いるが、今年も1名が希望している。
口腔健康学科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国平均 93.0%のところ、本校は 90.9%と平均を下回った。受験生が少ないことが影響しており、11名の受験生のうち1名が不合格となった。校長をはじめ教員全体で国家試験対策を実施している。これまでは問題の配布や補講のみで対策を実施してきたが、今年度は毎日登校し、それ以外の時間も使いながら国家試験対策をしていく。4期生は25名が在籍。全員合格を目指して取り組んでいる。 ・ 入学者が7名だった設置初年度から、学生数は年々増えてきている。充実した教育を提供するため、実習等で使用する器具などを充実させていきたい。 ・ 3年生の臨床・臨地実習は無事に終了した。2年生が歯科医院で実習中である。実習先の中に、卒業生が就職した診療所がいくつかあり、教育と就職の面で強いパイプができつつある。今後もこういったつながりのある医院を拡大できることを期待している。 ・ 全学年のカリキュラムを見直し、科目・授業時間をより適切なものとした。新しいカリキュラムは次年度から開始する。 ・ 昨年度の卒業生で初めて編入生を輩出した。現在2年生の男子も編入を希望していることから、口腔健康学科からも日本体育大学に進学できることをアピールしていきたい。 ・ 今回初めて3年生の保護者会を開催した。保護者会の中で交流できたことで、保護者へ学生の状況の報告や相談がしやすくなり、国家試験合格に向け、学校・本人・保護者が三位一体になっていると感じている。次年度以降も継続していきたい。
事務	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収容定員に対する学生数が約 65%であること、建物の修繕等で大きな支出があることから、今年度末の収支見込は約 1,000 万円のマイナスを見込んでいる。口腔健康学科や事務の人員が少なく、広報にもさらに投資したいところだが、財政的に簡単ではない。入学者の確保も重要ではあるが、退学者抑制も大きなポイントになる。

2. 意見・要望など

学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新入生の入学後のミスマッチは少なからずあるもの、それを乗り
------	---

	<p>越えられなければ簡単に退学を選択してしまう。退学者からデータを収集し、分析することで、退学者抑制のヒントとなるばかりか、教育やキャリア教育のヒントになることも期待できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他専門学校も学生募集には苦勞をしている。経営的な目的で人数を確保することも理解はできるが、教育の面で合格ラインを下げ、学生を確保することには疑問をもつ。目標や目的が明確でない学生は入学しても退学してしまう。 ・ 同窓会で公式 LINE アカウントを立ち上げた。約 600 名弱の卒業生が登録しているため、広報に有効活用してほしい。 ・ 自己評価における教育活動(カリキュラムを体系的に編成されているか)について、より詳しく調査の根拠を示すべき。医療系であるため外部の目は厳しくなる。
教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国家試験対策の講義形式の時期が遅いのではないか。過去、2年次に解剖・生理学の対策をしていた実績がある。最終学年になるまでに基礎を固めておかなければ国家試験対策が遅れる可能性がある。 ・ 授業以外の時間、学生が教科書や参考書を開く機会が少ないように感じる。授業だけでなく復習の機会をもたせるよう指導するとともに、教員は学生にわかりやすいようより授業を工夫していく必要がある。 ・ 一部の学年において、一方的に講義するのではなく、ディスカッションをしながら進められるようになった。こういった学年が増えていくことを望む。 ・ 板書をスマホやタブレット等で写真を撮っている。効率は良いと思うが、学習できているか疑問を持っている。 ・ 昔は成績が悪くても必死で勉強についてきていたが、現在は勉強に少しでもついていけないとやる気を失っている。学生が自ら学べるような仕掛けを望む。 ・ 整復健康学科においては、他校よりも良い模型がたくさんある。非常勤講師にも伝え、もっと有効活用すべき。
カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に口腔健康学科において、解剖学を理解してから、生理を学ぶ方が、学生が迷わないで済むはずだが、順番が逆になっている。来年度、カリキュラムを変更するという報告があったので、改善を期待する。